

文学部生の

リアルな！学生生活

Vol.30

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。



「社会学とはどんな学問だと思いますか？」

この言葉が、初めての講義で教授からかけられた問いでした。その答えは「社会で起きるあらゆるモノ・コトを探求し、分析できるのが社会学だ」ということ。人と人によって生まれる「社会」で起こっている現象にはすべて意味があり、目に見えない心理や感情をも分析することができるのが社会学なのだという説明を聞き、4年間の学びに胸を高鳴らせたのを覚えています。私は、将来マスコミで働きたいという夢を持っており、社会問題に興味があるという漠然とした気持ちで社会学専攻に進みました。そのため、この問いによって社会の仕組みや構造に対してしか視点を持っていなかったことに気



多摩市議会議長へのインタビュー後
(右から2番目が筆者)



広報室制作 YouTube「ちゅうテレ」で大学の魅力を伝える活動もしています

づき、能動的に学問を究める学生としての自覚を持つようになりました。

社会学専攻での学修

社会学専攻は、1年次に基礎演習や社会学史の講義で社会学の概念や理論を学び、2年次に質的・量的調査を行うことで研究手法を身につけ、卒業論文執筆の基礎固めを行います。特に、2年次は研究に慣れないなか、アンケート調査やインタビュー調査など、自分で問いを立ててデータを集



ヒルトップにて

める作業を年に4回行うことになるため、学生の間では一番ハードな学年とも言われています。私が最も力を注いだのはインタビュー調査でした。「若者の政治参加」をテーマに取り上げ、多摩市議会議長へのインタビューを行いました。漠然と抱いていた政治

への疑問を具体的な問いへとブラッシュアップし、何を聞けば結論を導くことができるかを班のメンバーと議論したことで、論理的な組み立てのコツをつかむことができました。さらに、今まで接したことのない議長という立場にある方を対象としたこともあり、調査対象の存在や問題に対して、慎重な言葉選びや真摯に向き合う姿勢が何より大切だと感じました。

学びを得たボランティア経験

社会学専攻では、研究会のお手伝いやボランティアの募集が行われます。私も友人と何度か参加し、1年次は社会学専攻OGの方も所属されているという東京都民安全課の学生ボランティアに参加しました。中高生のスマホ・SNSの安全な利用を啓発するための事業で、実際に都内各地の学校へ赴き、出前授業を行うものです。当時の私は学生として「積極的に世の中を知りたい」と思っていたため、すぐに参加を決めました。

授業ができるようになるまでに数回の研修を受け、都庁の方からスマホ所持開始の低年齢化や「自撮り被害」という新たなボルノ被害があるという啓発内容を聞き、授業を進める際のファシリテーション方法の練習をして現場に臨みました。授業は基本的にク

自問自答と経験から体感する社会学

木村彩莉

文学部人文社会科学科社会学専攻4年
私立南山高校愛知県出身